



恐竜が大好きだったツリーファーム
巨大なわらび? <熱帯雨林にて>

第9回須賀川市青少年人材育成海外派遣事業報告

先月 8 月 5 日から 7 泊 8 日の日程で、須賀川市青少年人材育成派遣事業が実施されました。市内中高生 6 名がオーストラリアのケアンズへの派遣生として選ばれ、その引率者の 1 人として教育研修センター職員も参加しました。今月の「みち」は、いつもの内容とは異なり、派遣事業研修の一つであった学校訪問の様子について特集します。

オーストラリア ケアンズ市内の公立小学校訪問!

Edge Hill State School

訪問した学校は、日本では幼稚園年長組にあたる 5 歳児「プレップ」(準備組)と 1 年から 6 年までの 7 学年の子どもたち 1,200 人ぐらい在籍している大規模校でした。校舎は平屋建てがほとんどで、広大な敷地に教室が点在しており、授業によって教室へ移動していくようになっていました。校庭は全面芝生で緑が気持ち良かったです。派遣生は、3 年生のクラスで 1 日交流していたので、そのクラスと 6 年生のクラスを参観することができました。残念ながら英語が堪能でない筆者は、オーストラリアの教育について深く聞くことができませんでしたので、見て感じてきたことについて簡単に報告します。



時間割も教科書もない!!

I have a pen ! ピコ太郎と一緒にダンス

授業を実施するにあたって時間割はなく、担任の先生が決めた授業が 9 時からスタートしました。子どもたちの学びの状況や疲れ具合によって、途中にリラックスタイムを取り入れてビデオを見たり、集中力が途切れると、芝生のグラウンドに出てボール運動をしたり、教室でダンスをしたりしていました。その後、クールダウンをしてから授業に取りかかっていました。また、11 時になるとお腹が減っては学習能率も上がらないということで、ブレイクタイムが 40 分間あり、ランチとは別に持ってきた軽食やお菓子を食べながら休憩をとる時間がありました。その後、午後 1 時までには授業があり、1 時になるとランチタイムでまた食事をしていました。子どもたちは、ブレイクタイム用の軽食とランチタイム用の食べ物を持ってくるそうです。



ブレイクタイムの軽食

授業をする時に、教科書はありませんでした。授業内容は、州で決めた内容にそって担任が指導教材を作成し、それを各教室にある大型テレビに映し出して指導していました。補足説明は、ホワイトボードで行っていました。また 6 年生の算数の授業では問題集も使っていました。

子どもたちの実態に応じた柔軟な対応！！

学習に追いつかない子どもや、欠席して学習が遅れてしまった子ども達のために、その都度「ラーニングサポーター」が、別の教室で指導してくれるシステムがあるそうです。特別支援学級はありませんでした。教室環境で興味深いものがありました。それは子ども達が座るイスで「ポブリーチェアー」というイスがいくつかのクラスに置いてあったことです。クラスに2～3個あって、集中力が続かない子どもや正しい姿勢を保てない子ども達が自由に座れるイスのようです。自分から座ってもいいし、教師がその時の子どもの状況を見て座らせている時もあるようです。私も座ってみると、ゆらゆら揺れてバランスボールに座っているような感覚ですが、気持ち良かったです。正しい姿勢が保てない子どもに、感覚統合につまづきがある発達障害の子どもが多いという報告がありますが、集中力を保たせ、楽しみながら体幹を鍛え、姿勢をよくする効果もあると思いました。



目を引いた掲示物から感じたこと！！ 思ったこと！！

掲示物でも目を引くものがありました。参観したどちらのクラスにも脳の絵とその説明が子どもに分かるように貼ってあり、日本ではあまり見かけない掲示物でした。たぶんどのクラスにも貼ってあるのだと思いました。「Your Brain」と脳について着目させ「WHAT KIND OF MINDSET DO I HAVE? (どんな考え方を持っているかな?)」「FIXED MINDSET (固定した考え方・思考態度)」よりも「GROWTH MINDSET (成長する考え方・思考態度)」が必要であること、そのためにはどのような考え方をしていけばいいのかを、イメージしやすいように書いてありました。



今、日本の教育は、「主体的・対話的で深い学び」アクティブラーニングの教育が進められていますが、「主体的・対話的で深い学び」について、学ぶ側の子ども達自身がどのような考え方、学び方をしていけばいいのかを日本でも子ども達に具体的に考えさせていく必要もあるのではと感じました。



オーストラリアは、移民が多いということで、多様性を認め合う気風が土台にあり、その多様性も人種だけでなく、個々人が持つ特徴・特性をも認め合うことを小さい時から教育されているせいか、学校生活において学びにくさや居心地の悪さを感じることなく、のびのびと楽しく過ごしている子ども達の姿がとても印象的でした。OECD が実施している国際学力調査 (PISA 2015) 結果を見ると、日本の方がオーストラリアよりも上位であり、日本の教育が素晴らしいと評価されていると聞きますが、今日の日本の学校現場で課題となっている、いじめや不登校の問題、発達に課題のある子ども達への対応等において、小さい時から多様性を認め合うオーストラリアの教育からも学ぶべきものがあると感じました。

派遣生の詳しい研修の様子やその成果については、教育委員会が記録集としてまとめますので、省略させていただきます。現地の学校の子ども達と1日交流し、その中で須賀川市のPRや学校生活についてもプレゼンしました。また、日本文化の紹介をしてから一緒に体験活動を行いました。
9月21日(土)の14:00~15:10に、市役所4階大会議室において研修視察報告会が行われます。

《引率者の独り言》

ワニとの闘い

“一勝一敗”

ワニ肉は食べれたが、

ワニ革は買えなかった。

ザンネン ↘

